

口永良部島の火山活動解説資料（平成 20 年 1 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

1月25日14時に、噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)を発表し、火口周辺警報を解除しました。火山性地震や火山性微動は少なくなり、新岳火口では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

火口内で噴気や火山ガスの噴出が見られ、火口内等(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)では警戒が必要です。

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)をレベル1(平常)に引き下げました。

1月の活動概況

・噴煙活動

新岳・古岳の噴気に特段の変化はありません。

・地震、微動活動(図2、図3)

火山性地震の発生は2007年9月頃から減少し、それ以前にみられていた一時的な多発も認められません。月回数は124回(12月:111回)でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

火山性微動は2007年9月から減少傾向を示し、継続時間も短くなっています。月回数は4回(12月:2回)でした。

・地殻変動(図4、図5)

GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は観測されませんでした。

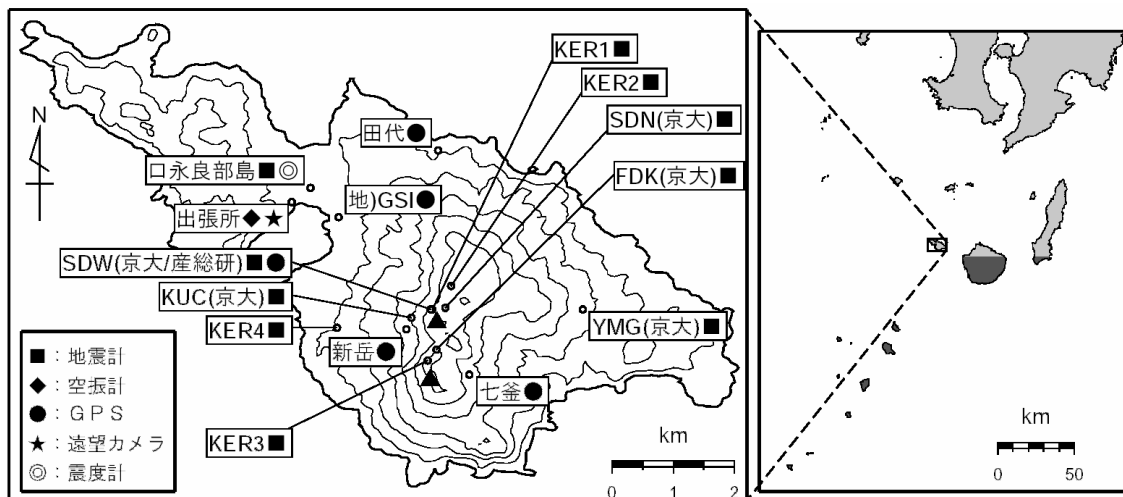


図1 口永良部島 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成20年2月分)は平成20年3月6日に発表予定です。

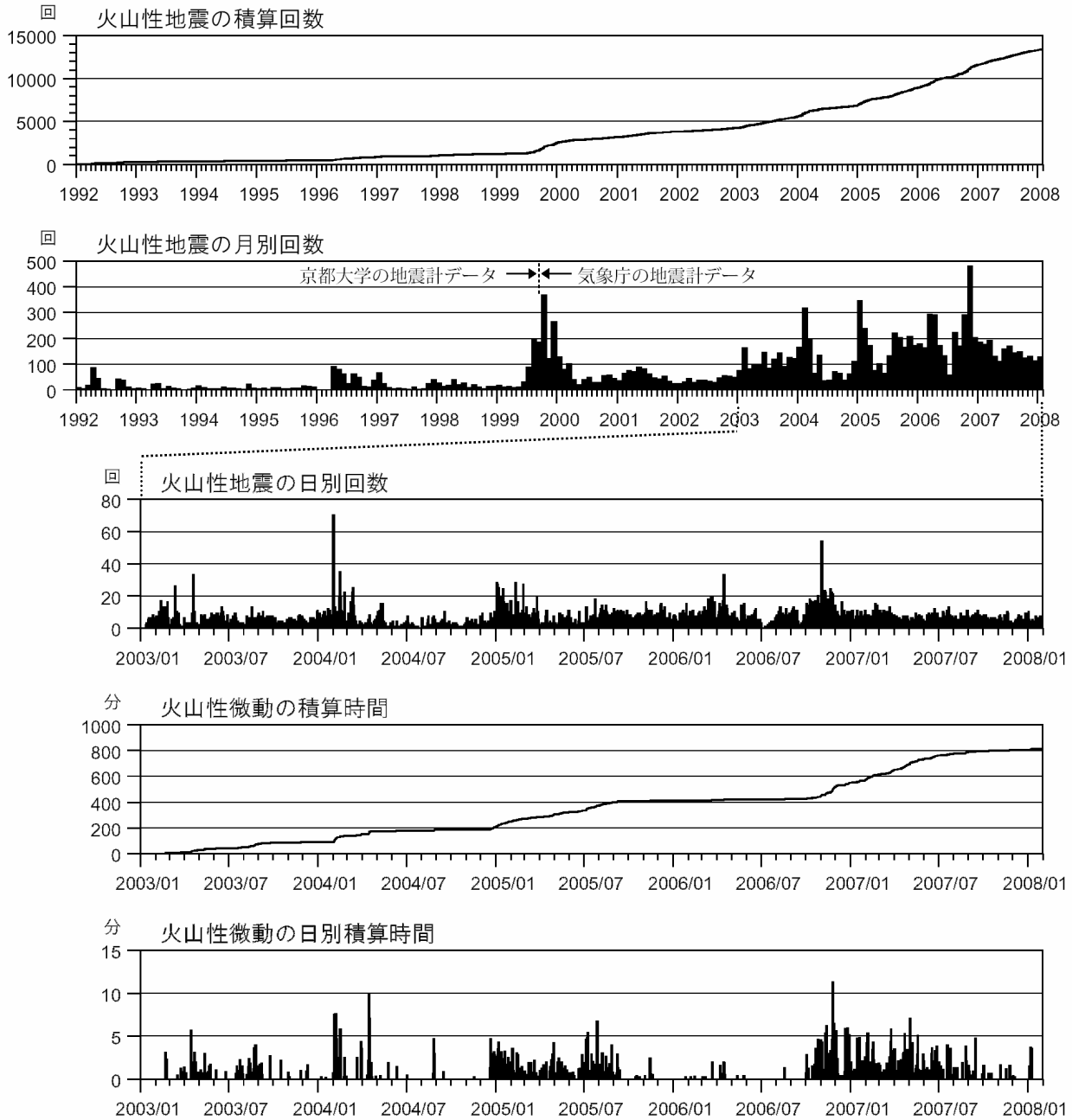


図2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日～2008年1月31日)

- ・火山性地震は2007年9月頃から、わずかに減少傾向が見られます。
- ・火山性微動は2007年9月頃から減少傾向を示し、継続時間も短くなっています。

*1992年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日間は京都大学のデータを使用しました。

*2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

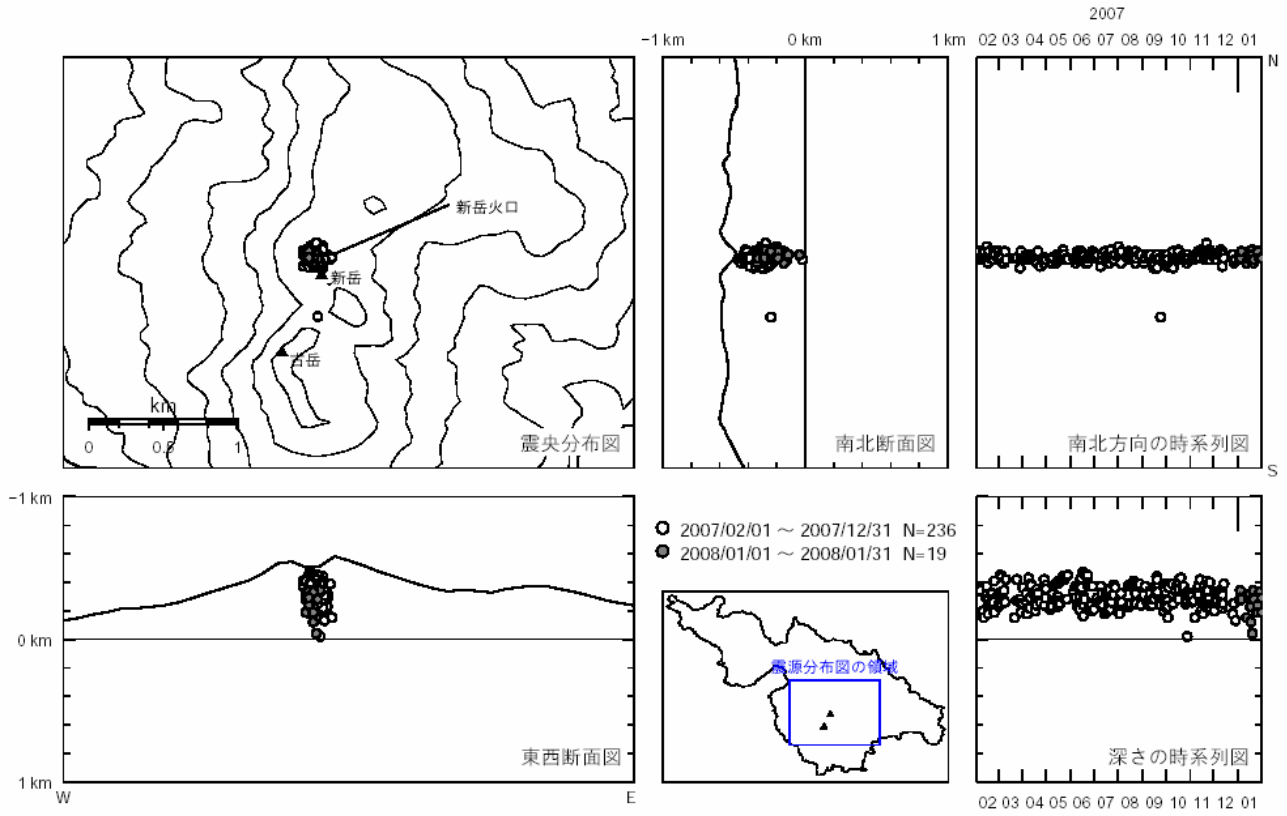


図3 口永良部島 震源分布図(2007年1月12日~2008年1月31日)
火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

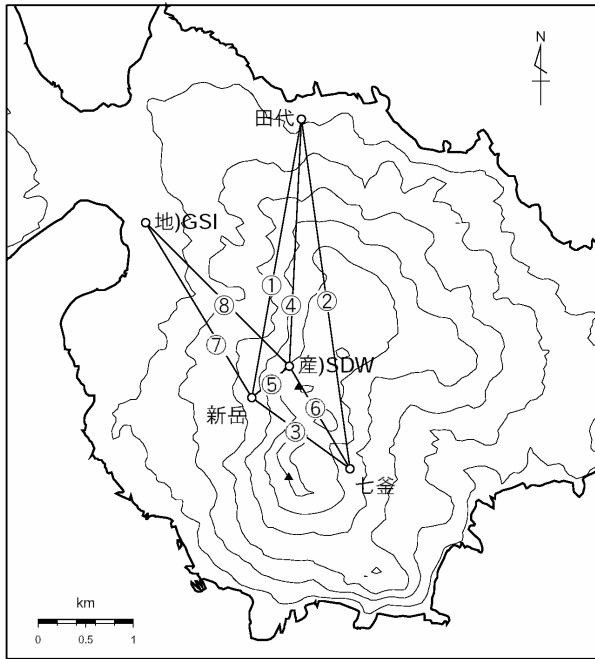


図4 口永良部島 GPS 連続観測基線図

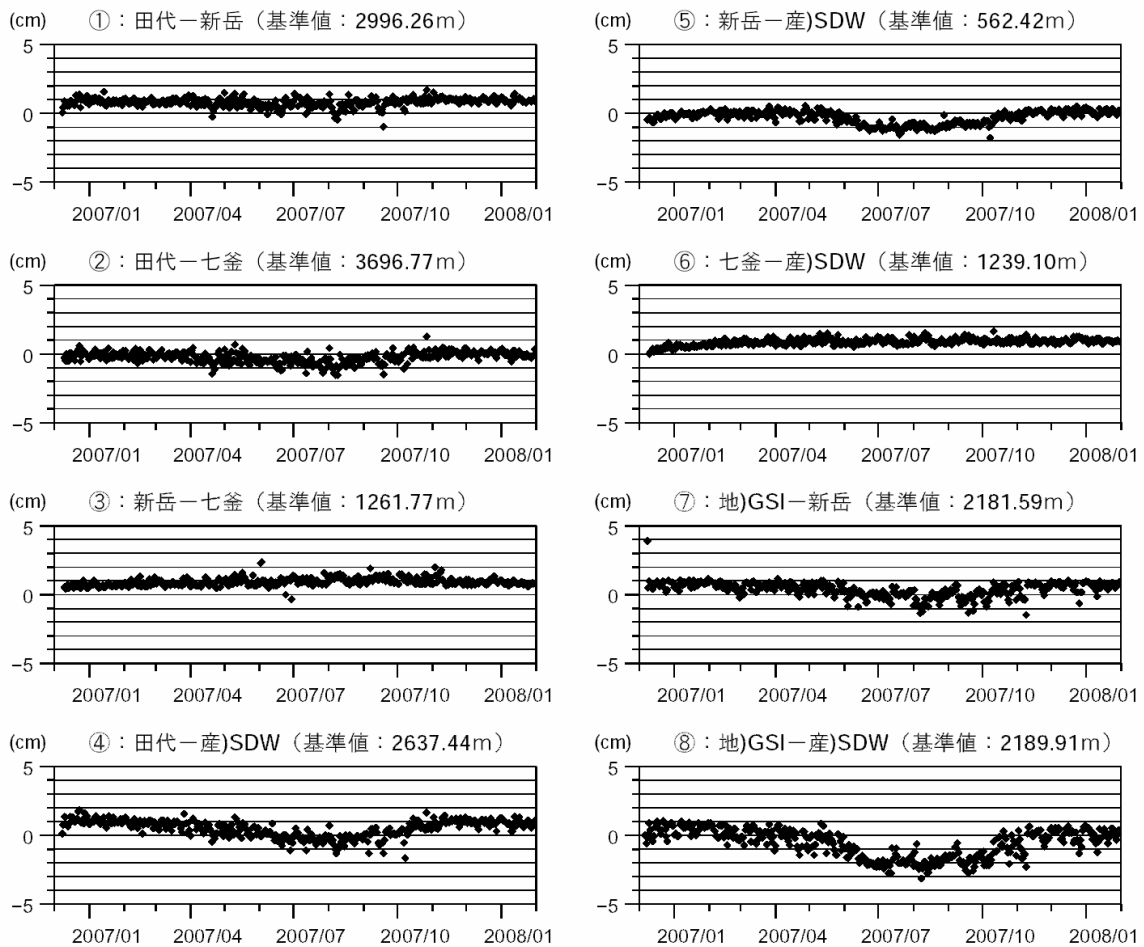


図5 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006年12月8日~2008年1月31日)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

この基線は図4の ~ に対応しています。